

原田病院外来診察担当表

(平成26年10月1日～)

●診察時間 午前9時～午後12時 午後4時～午後6時

☆当院では待ち時間短縮のため午前中の診察は予約制となっております☆

□ 一般内科外来 □ 糖尿病外来 □ 泌尿器科外来 □ 整形外科外来 □ 慢性腎臓病 (CKD) 外来 □ 在宅血液透析 (HHD) 外来

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午 前	1診	重本	山下和臣	重本	西澤	山下和臣	重本
	2診	竹内	西澤	水入 (腎臓内科)	水入 (腎臓内科)	山下秀樹	山下和臣
	3診	山下秀樹	大下	永野	小野	大下	小田
	4診 DM	内藤	内藤	内藤	大下	永野	武本
	5診 整形外科	石田	石田	石田	黒田 (血液内科)	石田	佐々木 (内科)
	6診 初診	藤井	佐々木	小田	永野	小野	竹内
	7診	浅井	藤田 (泌尿器科)	若本	武本	藤田 (泌尿器科)	泌尿器科 (広大医師)
	放射線科	石根、樋口	石根	石根	石根、樋口	石根	樋口
午 後	1診	16:00～ 18:00 永野	16:00～ 18:00 佐々木	15:00～ 18:00 碓井	16:00～ 18:00 浅井	16:00～ 18:00 若本	16:00～ 18:00 藤野
	2診	専門外来 (14:30～16:30) (不定期) 呼吸器 濱田	専門外来 (14:30～16:00) (第1火曜日) 循環器 木原	16:00～ 17:00 藤野	専門外来 (14:00～16:00) PD 西澤	専門外来 (16:00～18:00) 呼吸器 濱田	専門外来 (16:00～18:00) DM 武本
	3診	16:00～ 17:00 小田	専門外来 (14:20～16:00) CKD 水入	専門外来 (16:30～18:00) HHD 西澤	専門外来 (14:00～16:00) CKD 水入	専門外来 (14:30～16:00) CKD 西澤	—
	4診	専門外来 (14:00～15:00) 禁煙外来 内藤	16:00～ 17:00 小野	16:00～ 18:00 佐々木	—	—	—
	5診	専門外来 (13:00～16:00) フットケア 武本	—	—	14:30～16:30 整形外科 石田	専門外来 (16:00～18:00) 循環器 竹内	—
	7診	—	—	—	専門外来 (14:00～15:00) 特定健診 武本	—	—

※手術・救急・学会などにより担当医が予告なく変更になることがあります。

一陽会

原 田 病 院

院長 重本 憲一郎

〒731-5134 広島市佐伯区海老山町7番10号

TEL 082-923-5161 FAX 082-921-8035

一 陽 会 ク リ ニ ッ ク

院長 碓井 公治

〒731-5133 広島市佐伯区旭園10番3号

TEL 082-924-0033 FAX 082-924-0037

イーストクリニック

院長 有田 美智子

〒732-0814 広島市南区段原南1丁目3番53号 イーストビル6F

TEL 082-506-0123 FAX 082-567-7115

横 川 ク リ ニ ッ ク

院長 藤田 潔

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目7番19号 横川メディカルプラザ3F

TEL 082-231-0111 FAX 082-231-0155

クローバー訪問看護ステーション

所長 大泉 淳

クローバー居宅介護支援事業所

所長 平田 恵美

〒731-5133 広島市佐伯区旭園5番58号

TEL 082-925-6222 (訪問看護) 082-925-6221 (居宅介護)

FAX 082-925-6223 (共通)

ケアレジデンス楽々園

施設長 大脊戸美代子

デイサービス楽々園

所長 西 幸子

クローバーヘルパーステーション

所長 甲斐 慎一郎

〒731-5136 広島市佐伯区楽々園3丁目14番3号

TEL 082-943-8686 (ケアレジデンス楽々園)

082-943-8585 (デイサービス楽々園)

082-943-7088 (ヘルパーステーション) FAX 082-943-8588 (共通)

あさひメディコ

グ ラ ン ホ ー ム あ さ ひ

施設長 日高 直美

デ イ サ ー ビ ス あ さ ひ

所長 畑 千恵

〒731-5133 広島市佐伯区旭園9番31号

TEL 082-943-7773 (グランホーム)

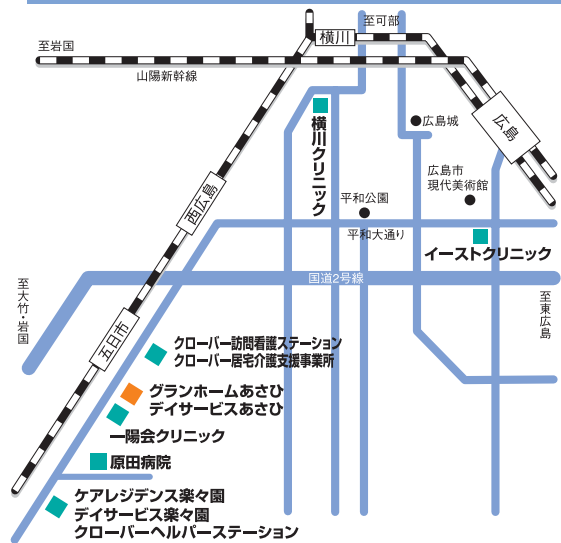
082-943-8610 (デイサービス) FAX 082-943-8600 (共通)

発行 一陽会広報委員会

〒731-5134 広島市佐伯区海老山町7番10号
TEL 082-923-5161 (代) FAX 082-921-8035
ホームページ <http://www.icy.or.jp> E-mail info@icy.or.jp (一陽会 広報室)

ご意見ご質問があれば上記の一陽会広報室までご一報ください。

周辺地図



あとがき

この夏「デング熱」という聞きなれない病気の国内感染事例が毎日のように報道されました。過去にも戦時中、東南アジアなどで感染した兵士たちが持ち帰ってしまったウイルスを蚊が媒介して国内で広まった事例があったそうですが、今回の代々木公園などの発症例のように渡航履歴がない日本人が感染したものとしては約70年ぶりだそうです。◆デング熱の特徴としては、熱帯・亜熱帯地方に多い病気で、発症すると全身に腰痛・筋肉痛などの痛みを伴い、はしかのような発疹が出ます。現在予防ワクチンはなく、処置せずに放っておくと致死率は10数%に上るそうです。◆WHOなどのデータによると、全世界で人間を死に至らしめた生物で最も多いのは「蚊」だそうです。その数は年間72万人に上り、2位の人間47万人、3位のヘビ5万人、4位の犬2万人を大きく上回っています。中央アフリカに生息するハマダラカという蚊の一種は人間にマラリアを媒介し、72万人中62万人がこの蚊の犠牲となっているということです。◆万が一蚊に刺され、2週間以内に突然の発熱や体の痛みを感じたら迷わず病院に行ってください。日本の医療機関で適切な処置をすればデング熱の致死率は1%以下。むやみやたらに怖がる病気ではないようです。ただ次の夏から蚊には気をつけていきましょう。(N.U)



題名 「雲の上の晴れ間」

撮影 原田病院 透析室 北森 初男

一陽会 基本理念

- 1 愛情ある奉仕の心を以って地域医療・介護に貢献する。
- 2 和衷協同して技術の向上と人格の形成に努める。
- 3 誠心と創意工夫を以ってその職責を全うする。

一陽会職員は、「愛・和・誠」を是訓として、日々の診療にあたっております。

患者の権利

- 1 患者は人としての尊厳を維持する権利を有します。
一陽会職員は患者のプライバシーの保護に努め、患者により選択された医療の提供を行います。
- 2 患者は納得できる医療を受ける権利を有します。
一陽会は患者に必要な情報提供と説明を行い、インフォームドコンセント(納得診療)を適切に行います。
- 3 患者は医療機関の選択の自由の権利を有します。
患者にはいかなる治療段階においても他の医師等の意見をもとめる権利(セカンドオピニオン等)があり、一陽会はこれを支援します。

原田病院 基本方針

- 1 地域ニーズに応える地域密着型の病院をめざす。
すなわち、高齢化が進む今日、高齢者の急性期医療を担うという当院の役割を明確にする。その為に、病診・病病連携を密にし、紹介患者の受け入れ、及び回復後の逆紹介を励行する。
- 2 医療、介護、福祉の関連機関と協力して、在宅医療を支援・推進する。
また医療の質を高めることにより早期社会復帰、平均在院日数の短縮をはかり、急性期型病院を維持する。
- 3 腎疾患、糖尿病、透析を中心とした急性期医療を提供する。
特に透析医療では、当地区において中心的役割を果たすよう努力する。
- 4 患者中心の医療を目指す。
すなわち患者の権利、尊厳、利益、希望を尊重した医療を実現するため、相談窓口、検討機関を広く設け、積極的に実施する。

透析支援システム

透析支援システムを「Future Net Web+」に更新しました。

一陽会ではこのたび全施設の透析支援システムを最新技術が導入されたFuture Net Web+に更新いたしました。

透析業務はシステム化により、煩雑な作業を効率よく行うことができます。「安全性」「利便性」が向上し、効率化によって短縮できた時間は患者さまと接する時間に充てられます。

⇒ 業務のシステム化は、患者ケアの充足につながります。

また、上記に加えFuture Net Web+を導入することにより、グループ施設間（原田病院、一陽会クリニック、イーストクリニック、横川クリニック）の連携が可能となり、



他の院内システムとの連携がより密になります。

入退院時や、グループ施設間での臨時透析の際に詳細な情報共有（患者さま個々の透析条件はもちろんのこと、透析に必要な準備品、体重計算（除水補正）、装置の警報設定等）が可能となり、人の手による情報入力回数を少なくし、思い違い等の医療事故を減少できることが期待されます。

⇒ 連携の充実は安全性の向上につながります

現在、新たな情報媒体の活用により、ベッドサイドの患者さまにも、わかりやすい情報提供、検査結果の説明が可能になる、「回診ツール」にも取り組んでいます。

血液検査結果や、体重の増減の推移が一目でわかるように、グラフ表示が可能です。

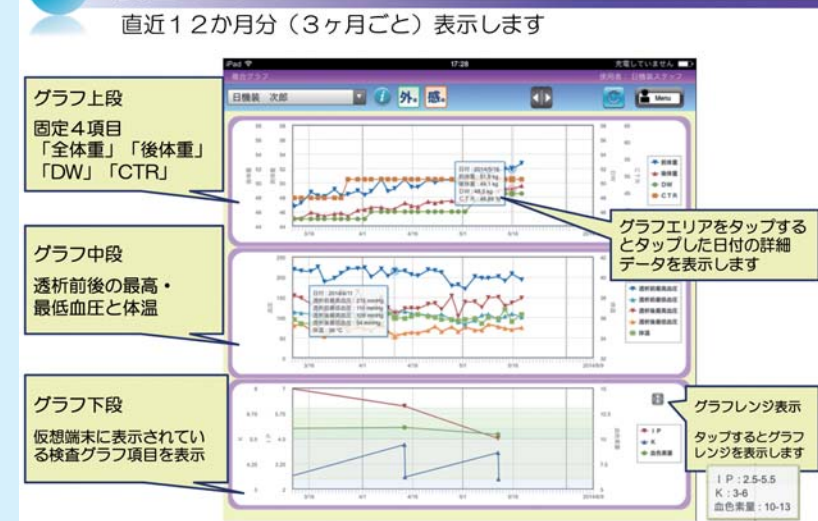
透析治療は患者さまの自己管理による部分も大きいので、新たなツールにより、患者さま自身がお自分の検査結果や治療について興味を持たれるきっかけになればと考えています。

一陽会クリニック 透析情報科
主任 稲本 健司

検査結果



複合グラフ



近隣医療機関のご紹介

たかた外科・整形外科（佐伯区海老園）

開放的で明るい院内とスタッフの笑顔が素敵な、佐伯区海老園「たかた外科・整形外科」のご紹介です。

当院は平成15年に開業しました。

診療は主に腰痛や肩こり、外傷などの身近な疾患を対象にしていますが、最近は骨粗鬆症の治療も骨折のリスクや疼痛の軽減のため積極的に行っています。また、外傷の治療では湿潤療法を行うことが増えています。

当院の外観は一見変わった建物に見えますが、開放的な作りで陽の光がよく入り、院内はとても明るい環境になっています。スタッフも笑顔で接するようにしており、患者さまがリラックスして

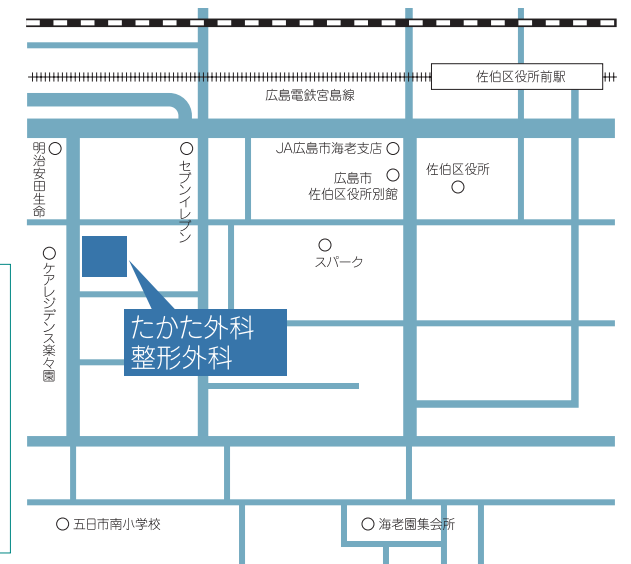


受診していただけるように努めています。

小さな診療所ですが、これからも地域の皆さまに少しでもお役にたてるようがんばりたいと思います。

たかた外科・整形外科
院長 高田 茂実

- 所在地 〒731-5135 広島市佐伯区海老園1-6-18
TEL.082-924-2800 FAX.082-924-2973
- 診療科目 外科・整形外科・内科
- 診療時間 午前 9:00～12:30（木曜日・土曜日は9:00～13:00）
午後15:00～18:00
- 休診日 木曜日午後・土曜日午後、日曜日、祝日
- 駐車場 8台



サービス付き高齢者向け住宅 ケアレジデンス楽々園

ホームページ リニューアル

ケアレジデンス楽々園 検索

一陽会のサービス付き高齢者向け住宅「ケアレジデンス楽々園」のホームページをリニューアルしています。
ケアレジデンス楽々園で実施しているサービスの内容、各部屋の写真・レイアウト、施設内の設備など詳細にわかりやすく掲載してまいりますので、是非一度ご覧ください。（10月中旬公開予定）





糖尿病透析予防指導



原田病院 糖尿病内科医師
武本 知子

原田病院では、糖尿病透析予防指導を行っています。

糖尿病性腎症を原疾患とした末期腎不全に対する慢性透析を受ける患者は年々増加し、その対策は急務となっています。厚生労働省は平成24年度より糖尿病透析予防管理料を新設し、糖尿病患者を対象として、透析予防に関する指導を行った場合、月に一回350点が算定できるようになりました。医師が透析予防に関する指導の必要性があると認めた外来患者に対して、同日に、医師、管理栄養士、看護師が共同して指導を行った際に算定でき、施設やスタッフの基準が細かく定められています(表1)。

当院の外来では、平成24年6月よりこの糖尿病透析予防療養指導を行っています(表2)。現在、看護師はCDE(糖尿病療養指導士)1名、Hiroshima CDE3名が在籍しています。当院の栄養科は管理栄養士10名で、そのうち、5年以上の経験をもつものは6名です。医師・看護師・管理栄養士が、同日に指導しなければならない為、火曜日・金曜日の指導枠しか対応できていないのが現状です。

当院にはHbA1c6.5%以上で、腎症2期、3期、4期に該当する患者さまが、163名(平成26年1月から3月までの集計)いますが、平成24年6月から平成26年3月までの間で、指導を受けていただいたのは15名でした(2期が12名、3期が2名、4期が1名)。その指導前後のdataが判明している12名を対象に解析を行いました。年齢は58.7±11.2歳、1型糖尿病が1名、他の11名が2型糖尿病です。指導回数の平均は6.4±4.9回(min1回-max17回)、罹患年数の平均は12±7.2年でした。HbA1cの平均は9.08±1.83%、BMIの平均は24.8±4.69kg/m²でした。

糖尿病性腎症の病期の経過ですが、改善したのは2名で16%、進行したのは3名で25%であり、残りの6割程度が不変でした。また、5期(透析期)への進行は認めませんでした(表3)。

病状に適応した食事療法の移行がスムーズにできるかどうかは糖尿病性腎症の予後に大きな影響を及ぼしますが、カロリーコントロール、バランスのとれた食事である糖尿病食から、たんぱく質・塩分を制限し、エネルギーを十分に確保する食事への転換が必要で、患者さまやそのご家族が大きく混乱する原因となりえます。非常に複雑かつ困難で重要な栄養指導となり、知識・経験が十分に備わった管理栄養士でないと適切に対応できません。当院では、糖尿病食・腎臓食・透析食といった日々の給食業務を通して、入院患者さまの病態管理に寄与するとともに、外来栄養指導・療養指導にも力を入れていきたいと考えております。

糖尿病透析予防管理料の算定要件	
患者	・ HbA1c 6.5%以上又は内服薬やインスリン製剤を使用している ・ 糖尿病性腎症2期以上
病院	・ 定期的に糖尿病教室を実施
医師	・ 5年以上の経験
看護師	・ 5年以上の経験 ・ 2年以上の経験、かつこの間に通算1000時間以上糖尿病患者の療養指導を行った者であって、適切な研修を修了したもの
栄養士	・ 5年以上の経験
年に一回、患者の状態の変化の報告が必要	

表1



表2

糖尿病性腎症の経過:前→後											
se	回	typ	DM	随時尿			随時尿				
age	x	数	e	歴	S-Cre	尿蛋白	Alb/Cre	病期	S-Cre	尿蛋白	Alb/Cre
53	M	17	2	17	0.71	—	35.5	2期	0.81	—	76.7
75	M	7	2	9	0.87	15	110.2	2期	0.89	—	117.2
62	M	16	2	8	1.04	100	3期	2.34	1000	4期	進行
72	M	4	2	12	0.76	30	295.3	2期	0.71	30	297.8
55	F	8	2	22	0.59	71.7	2期	0.61	100	837.5	3期 進行
50	F	6	2	3	0.71	15	102.4	2期	0.72	15	8.4
65	M	3	2	24	0.48	55.9	2期	0.53	15	2期	不変
37	F	6	1	4	0.69	—	165.9	2期	0.66	—	13.9
42	F	4	2	22	0.36	—	61.3	2期	0.36	15	75.4
67	M	3	2	7	1.24	300	2352.0	4期	1.32	300	4期
67	M	2	2	5	0.76	30	110.2	2期	0.71	30	475.2
59	F	1	2	9	0.76	30	192.7	2期	0.76	30	192.7
16%改善, 58%不変, 25%進行. 5期への進行はない											

表3



第59回 日本透析医学会学術集会・総会

日時：平成26年6月12日(木)～15日(日)

場所：神戸ポートピアホール、神戸国際会議場 他

6月12日(木)～15日(日)に神戸で開催された 第59回 日本透析医学会学術集会・総会に一陽会から15演題の研究発表を行いました。今回の研究の成果を日常の診療に活かしていくよう努めてまいります。

演題：外来におけるCKD保存期指導の取り組み

(医)一陽会 原田病院

○木村郁子、本多祥子、飯村久二子、新田千恵美、吉田美幸、水入苑生、重本憲一郎、原田 知

【目的】

外来におけるCKD保存期指導の実績を明らかにする。

【方法】

CKD外来患者・慢性腎不全患者支援システム導入者を対象とし、H25年6月～10月に検査結果待ち時間を利用し、検査の見方・治療内容・腎代替療法・合併症等について、看護師による個別指導を行った。また患者一覧表を作成、腎チームミーティングにおいて指導・介入方法を検討、情報の共有、指導期間における実績を分析した。

【結果】

保存期CKD187例中34例に指導できた。透析導入の症例は4例で、全例スムーズに受け入れた。指導が無効であった症例は0であった。チームで介入方法の改善を行い、10月新規慢性腎不全患者支援システム導入者には100%介入できた。

【考察】

診察時間により、指導場所・時間・スタッフ不足のため全例に指導を行えていない現状がある。今後も継続して取りくみを行う必要がある。

【結論】

保存期CKD患者に看護師による指導を行い、治療に対する疑問の解決、知識の向上につなげることができた。

演題一覧

*維持透析患者におけるFGF-23変化率

○水入苑生、西澤欣子、山下和臣、小野京香、浅井真理子、碓井公治、丹治知恵、本丸忠生、福田剛三、藤川 博

*血液透析患者での血清ヘリコバクターピロリ抗体の検討(第2報)

○山下和臣、水入苑生、山下秀樹、丹治知恵、若本晃希、碓井公治、重本憲一郎、原田 知

*血液透析患者における冠動脈石灰化スコア(CACS)変化率と関連因子の検討

○西澤欣子、小田まや、水入苑生、重本憲一郎、石根正博

*持続性ESA製剤が及ぼす炎症反応に関する検討

○浅井真理子、小野京香、碓井公治、水入苑生、重本憲一郎

*2型糖尿病合併血液透析患者におけるサキサグリブチンの有効性と安全の検討

○井上佳奈、大下加代、水入苑生、重本憲一郎、碓井公治、原田 知

*透析患者に対するラメルテオンの有用性

○中村直正、烏田一義、花岡澄子、中園博司、有田美智子、頼岡徳在

*当院におけるバスキュラーアクセス(VA)管理の試み

～VASコアリングの有用性を検討する～

○加島みゆき、烏田一義、中村晴子、岡本真奈、片山千秋、山縣紗織、中村直正、花岡澄子、新田千恵美、吉田美幸、中園博司、有田美智子、頼岡徳在

*透析液清浄化管理とトラブル対処の評価

○丸山加奈恵、烏田一義、阿刀敏也、加島みゆき、花岡澄子、新田千恵美、吉田美幸、有田美智子、頼岡徳在

結果① 保存期指導結果

保存期CKD187例のうち34例に指導を行った

指導のべ回数 56回
平均所要時間 33分

転帰 指導継続中 27%
指導初回のみ 32%
透析導入 11%
転院・その他 30%

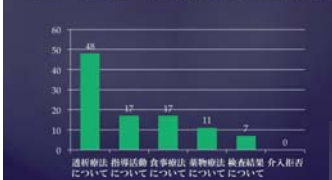
結果② チーム活動の結果

・活動PRのポスターを作成・掲示した

・平成25年10月より新規腎システム導入患者への介入は100%となった

・透析導入4例では全例に療法選択を行い、治療の自己決定ができた

結果③ 患者・家族からの質問、指導内容



まとめ

・保存期CKD患者に対して看護師による指導を行うことで、治療に対する疑問の解決、知識の向上に繋げることができた

・約半数の患者・家族は透析治療についての疑問をもっており、今後の指導に反映させていきたい

・指導効果の確認とともに、継続して取り組みを行う必要がある

*血液透析患者への食事指導による栄養状態改善の検討

○目代奈美、小田真由子、菅由香里、昌木秀介、廣兼美佐子、藤川 博、丹治知恵、碓井公治

*多用途透析用監視装置の新規導入における微生物迅速検査装置の活用

○有田英貴、昌木秀介、森田直美、藤川 博、碓井公治

*DCS-100NX全台導入による使用経験

○住田智美、小野亮一、福馬美保、錦郡 司、新田千恵美、吉田美幸、加藤曜子、藤田 潔

*HDからon-lineHDF変更による臨床効果

○龍野浩典、小野亮一、川口三奈、福馬美保、錦郡 司、新田千恵美、吉田美幸、加藤曜子、藤田 潔

*効果的な防災対策教育の検討

～スタッフの理解度調査を試みながら

○黒谷成論、羽藤尚子、田中秀人、中村健一、山下厚美、栗栖啓子、北森初男、宮本弘美、新田千恵美、吉田美幸、水入苑生、重本憲一郎、原田 知

*オンラインHDF施行時におけるDCS-100NXの補液開始遅延時間機能を利用したAlb漏出量軽減への検討

○田島淳平、中村健一、昌木秀介、田中秀人、栗栖啓子、北森初男、宮本弘美、末岡茂雄、吉田美幸、水入苑生、碓井公治、重本憲一郎、原田 知

～地域連携室からのお知らせ～

原田病院では、地域の医療機関や関係施設との連携の窓口として地域連携室を設置し、患者さまやご家族さまから寄せられる様々な相談への支援を行なっております。

Q1 地域連携室という場所は何をすることで

様々な役割がありますので一言でお伝えするのは難しいですが、簡潔に言うと、地域と病院のかけはしとなる役割を担っています。(抽象的で申し訳ありません…)

具体的には、患者さまがスムーズに受診・入院・退院するための支援を行なっています。受診や入院の際の相談窓口になったり、地域の病院や介護施設を紹介させていただいたりしています。「退院する自信がない」「長期で入院が出来る病院(施設)が知りたい」などのご相談にも対応しています。

また、医療や介護、福祉に関するご相談にも対応しています。「医療費が心配」、「介護保険の使い方がわからない」、「障害者手帳や障害年金について知りたい」等々、専門的知識が必要と思われるご相談にも対応しています。

病気やけがによって、今までどおりの生活(人生)を送ることが難しくなった時、少しでも患者さまが望む生活(人生)に近づけるよう、お手伝いすることが私達の目的です。

Q2 地域連携室にはどんな人がいるのですか？

社会福祉士という国家資格を持ったスタッフが5名います。一般的には、医療ソーシャルワーカー(MSW)と呼ばれています。



Q3 相談するにはどうしたらいいですか？

地域連携室のドアをノックして頂くか、お電話頂ければ対応致します。

ただ、スタッフがいない場合やゆっくり時間が取れない時もございます。事前にお電話頂き、相談の予約をお取り頂ければ確実です。いずれにしてもお気軽にご相談ください。

相談費用はもちろん無料です。

《相談受付時間》
月～土曜日 9時～18時
(日・祝は休み)

地域連携室 主任
佐々木 章



夏期新入職員研修(接遇フォロー研修)(平成26年7月17、18、19日)

毎年、新入職員を対象に接遇フォロー研修を行っています。今年もIFアカデミーの潮先恵美子先生に心のこもった接遇を一人ひとり指導いた

だくために、63名の職員を3日間に分けて行いました。人の魅力を最大限に引き出す「人間力向上」のこの研修は、まる1日かけて行いますが研修生にも好評な研修です。実践的な指導を受けながら我々も人として成長していきたいと願っています。

管理本部教育担当 新田千恵美



コラム

いきいきさん

第28回 クローバー居宅介護支援事業所
所長 平田 恵美



初心を忘れず努めてまいります。

一陽会に看護師として就職して、27年目になります。

看護師として外来業務に従事していた時、介護保険が制度化される前に在宅医療を開始することになり、訪問診療と訪問看護を展開していました。

訪問看護で在宅を訪問していると、病院という管理された中で過ごされる患者さまとはまた違った「その人らしい」生活場面に遭遇したことが、私の中ではすごく新鮮で衝撃を受けたことは今でも鮮明に覚えています。

在宅での看護を通して生活を支えて行くということにやりがいを感じ、在宅看護の道を選びました。

介護保険制度化以降は、介護支援専門員として当院での医療・介護の連携の担い手として介護部門を定着させるべく現在に至っております。

昨年は、在宅事業部が発足し同じ志を持った仲間も増え、充実した日々を過ごしています。周りを見渡せばいつの間にか若い職員が増え自分の年齢を感じますが、在宅の道を進みたいと思った時の初心を忘れず、努めて行きたいと思っています。地域の皆さまも含め、今後ともよろしくお願い申し上げます。



今回は、「ホタテのパン粉焼き」をご紹介します。

健康レシピ

パン粉焼きは知っている方も多いのではないのでしょうか。

この料理は、油の使用量を減らしフライをイメージしたエネルギーコントロール料理の1つと考えられます。

通常フライの油の吸収率は素材の重量の10～15%です。しかし、この調理法であれば、油の使用量は約2%となります。ぜひ試してみてください。

今回はホタテで紹介しますが、エビや白身魚にも利用できます。



《材料(1人前)》

ホタテ貝柱 90g
パン粉 5g
パセリ 1g
パプリカ 0.5g
バター 2g
こしょう 0.05g
塩 0.4g

《作り方》

1. オープンの鉄板にオープンシートを敷き、ホタテの貝柱をつめてならべる
2. パン粉、パセリ、パプリカ、塩、こしょうを混ぜておく
3. 180℃10分程度でホタテに火が通るまで、加熱する
4. バターを溶かし、2に混ぜ込む
5. 3で出てきた水分を捨て、ホタテが縮むので隙間がないように並べ直し、4を上隙間なくのせる
6. 230℃のオープンで5～6分程度、パン粉に焦げ目がつく位まで加熱する

《ポイント》

パン粉にパプリカを混ぜることでフライのような色になります

栄養科 士長 藤岡 真弓

